

事業名 秋田新都市<sup>ごしよの</sup>御所野  
ふれあい地区公園整備事業

秋田新都市の地区公園整備にあたり、基本計画から施工まで、住民、利用者が参加するワークショップ方式による整備を導入し、住民、利用者と事業者とが一体となった公園整備を実現した。これにより、利用者ニーズに沿った公園整備を促進し、同時に地区公園利用者の公共施設利用への意識の向上が図られた。

受賞機関 地域振興整備公団  
秋田都市開発事務所  
事業実施期間 平成10年7月28日～平成13年3月25日  
事業費 847百万円

#### 事業等の特徴

ワークショップを行ったことで公園整備に関して住民の積極的な参加が得られ、ワークショップの参加者から、積極的に公園管理に携わりたいという意識が向上し、ハーブを趣味とする「みどりの風の会」が結成された。

このように、地域住民の健康の増進、地域コミュニティの熟成及び地域文化活動の発展に貢献できるよう、取り組みがなされている。

#### 事業の概要と利用者等の評価

##### 1. はじめに

秋田新都市開発整備事業は、秋田テクノポリス計画の中核として、秋田市における既成市街地の都市機能を補完し新たに地域社会の核としての複合的新都市を整備するものである。計画面積は約380ha、計画人口11,300人の事業であり、「御所野ふれあい地区公園」は規模3.9ha地区公園である。

##### 2. 公園設置目的と住民参加

本公園は新都市と周辺集落地を含む地区レベルの地区公園として、また地域住民の健康増進とコミュ



ワークショップで模型に見入る参加者

ニティ熟成、地域文化活動の発展を目指した公園として計画されたものである。

整備にあたっては、市民の多様なニーズにきめ細かく対応するとともに、完成後においても公園本来の目的をより高く達成するために、公園利用者が計画づくりの段階から参加するワークショップ方式を導入したものである。

##### 3. ワークショップの実施内容

ワークショップ方式を導入することで、住民の参加を得た基本計画、実施設計及び将来の公園管理への関わりを目指すこととし、公園整備による以下の効果を期待した。

地域により望まれる公園づくり

公園づくりからまちづくりへ

##### 4. ワークショップの実績

ワークショップへの参加者は幅広い層の参加者を募るために、ポスター掲示と町内会を通じての各戸チラシ配布、幼稚園・小学校への参加要請等、ワークショップ開催ごとに広範囲の呼びかけを行った。また、開催にあたっては、公園づくりと併せてガーデニング、樹木の育て方等の講習会など、参加者に魅力的な運営を心掛けた。

ワークショップの後半では、管理グループの形成、仲間づくりを目的として、参加者自ら企画したハーブの収穫パーティや参加者が講師を務める講習会を開催する等、会の成熟が見られた。

##### 審査委員会委員の意見等

- ・ワークショップに工夫がされている。
- ・多様な参加者からなるワークショップの実施・幅広い年齢層に参加してもらうために、様々な団体に呼びかけたことは評価できるが、今後の利用者からの声の吸い上げを是非行って欲しい。
- ・住民、利用者の意見・要望を取り入れるワークショップ方式を導入し、利用ニーズが高い公園の整備や地域コミュニティの育成、利用者の公園管理への参加を図るなどの試みに対して評価する。



子供達によるストーンペインティングの実施